

西の湖周辺におけるホンモロコ遊漁による採捕尾数

片岡 佳孝

1. 目的

西の湖においては、平成 23 年度から電気ショッカーボートによる外来魚の集中駆除と水田育成によるホンモロコ放流事業が行われており、西の湖流入河川やヨシ帯におけるホンモロコの産卵が回復してきた。それに伴ってホンモロコを対象とした遊漁が盛んになっている。西の湖周辺のホンモロコの資源管理のためには、遊漁を含めた管理策が必要と考えられる。そのため、遊漁実態を明らかにする必要があり、平成 24 年度から遊漁による採捕尾数の推定調査を行ってきた。本年度についても、継続調査を行ったので報告する。

2. 方法

遊漁（釣り、投網、たもすくい）によるホンモロコ採捕尾数の推定は、2 段階抽出により行った。調査日を 1 次抽出単位、採捕状況の聞き取りを行った遊漁者を 2 次抽出単位とした。採捕率や遊漁者数は時期ごとに変化したため、推定は月ごとに分けて行った。推定では、釣りは 8 時間、投網とたもすくいはそれぞれ 4 時間行うと仮定して計算した。

推定に必要な情報は、聞き取り調査により行った。聞き取りでは、遊漁者数の把握を行ったのち、無作為に選んだ遊漁者から聞き取りまでの採捕時間と採捕尾数を聞き取った。遊漁者数は、遊漁者数が増える午前 10 時から午後 2 時に目視により計数した。調査期間は、平成 27 年 3 月 31 日から 5 月 27 日であった。

3. 結果

釣りは、西の湖流出河川である長命寺川沿いで、投網は流入河川である蛇砂川と山本川、

たもすくいは、山本川と西の湖で行われていた。

調査日における総遊漁者数は、0 人(5/13)から 97 人(4/18)で推移した。釣りは 4 月 18 日が最も多く(79 人)、その後減少し 5 月初旬に終息した。たもすくい、投網は 4 月以降増加した。投網は、山本川、蛇砂川で 5 月末まで続いた(図 1)。遊漁による推定採捕尾数は、約 12 万尾(117,995 尾)となった。内訳は釣り約 0.7 万尾(7,700 尾)、たもすくい約 1.2 万尾(11,813 尾)、投網約 9.8 万尾(98,482 尾)となった(表 1)。

西の湖周辺の遊漁は、投網による採捕尾数の割合が高いことに特徴があり(表 1)、特に蛇砂川、山本川の限定された区間で採捕によるものである。

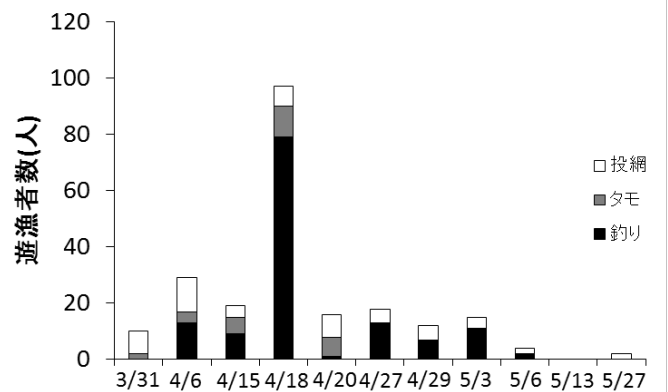


図 1 調査日における西の湖周辺の遊漁者数の推移

表 1 遊漁によるホンモロコの推定採捕尾数

釣り	7,700
投網	98,482
たもすくい	11,813